

相談支援つうしん



県立湘南支援学校
支援連携グループ
相談支援班 第7号
令和5年12月21日(木)

年末年始に向けて、町の賑わいが今年の終わりを感じさせます。玄関には、少しずつ集めたオーナメントを飾り付け、季節の支度を自分なりに楽しむようになりました。ちょっと、嬉しい季節です。



さて今回は、校医である精神科医の猪股先生からのお誘いで、「発達障害児地域支援者養成プログラム」に本校の教員（15名）と放課後等デイサービスの支援員の方と参加する機会をいただきました。そこで猪股先生から教えていただいた、自閉症スペクトラム障害（以下 ASD と表記）の子どもたちとの関わりについて少しご紹介させていただきます。

【自閉症スペクトラム障害（ASD）の子どもとの関わりについて】

『ASDの人は、記憶力が良い上に、出来事を客観的に認知することが難しい場合があるので、周囲から見たら行き過ぎた指導でなくても、本人にとってはトラウマ的な出来事として記憶することがあります。他者の失敗に過剰な反応が問題になる時、本人の傷付き体験を聞き出して、困っていることを共有し、現在の指導は本人を傷つける意図がないことを説明して安心させることが、癒しにつながるかもしれません』と話されていました。

このお話を伺い私は、二つのことを強く感じました。

- ① ASDの方は、情報処理の偏り（ピンポイントで物事をとらえやすく全体の大切な部分が見えにくい）があり、情報処理の未熟さから周囲の関わりにおいて『非難された、怒られた、怖い、嫌だ』といった負の感情を強く持ち続ける可能性があることを注意しなければならない。
- ② 本校の子どもたちは、知的ハンディもあるので、個々の子どもたちがイメージして理解しやすい情報提供と情報が整理しやすい環境調整と適切な評価をすることが支援者側に求められている。



【例えば・・・】

学習発表会を例にとります。大きな行事等が近づくと、子どもたちの様子に変化が見られます。「いつもと日課が違うぞ?」「最近体育館の活動が多いのは何でだろう?」と、いつもと違う状況にドキドキする場面が多くなります。教員から伝えられた情報を自分なりに理解はするものの、いつもと違う『人・場所・活動』といった環境の変化に心は揺れ、「何でいつもと違うの?」「よくわかないよ!」と混乱が起きやすくなります。「いつもすることやいつもの変わらぬ物、人」は子どもたちにとって分かりやすく、安心できるのでそれに頼る、すなわち状況の依存（こだわり）となります。心の揺れは、身体にも出やすくいつも以上に感覚のセンサーは敏感になりやすいです。

教員たちは、「いつもとここは違うからね」「これを見てイメージを共有しようね」と、消えてなくならない写真や絵、動画、文字等の視覚情報を用意して手掛かりを伝えます。そして、正しい振る舞い方ができるように、授業の中で事前に振る舞い方を一緒にやって、さらに情報提供を行います。それが定着するように「うまくなってきたね」「良い調子!」といった評価をしていくことで、子どもたちの記憶定着につながり、落ち着いて当日の発表へと向かうことができます。

もちろん大きな行事で、活動がうまくいかない場合もよくありますが、大きな行事は振る舞い方を身に付

ける上で大切な場面です。難しかったところは課題を分析して次の行事に生かすことができるようにご家庭と情報共有をする機会と捉えることもできます。失敗は成功の母！

ただ、ここで注意しなければいけないのは、「何しているの?」「あー、やっちゃった!」といった、何気ない周囲の人の一言が、ASDの人にとっては、ものすごく辛いものになってしまう可能性があるということです。加えて感覚の過敏さがある方も多いので、大きな声でこのセリフを言われると、子どもたちのドキドキ感は一気に頂点に達してしまうのかもしれません。

「子どもたちとの関わり方は、本当に丁寧に関わる必要がある」と改めて学び直した瞬間でした。

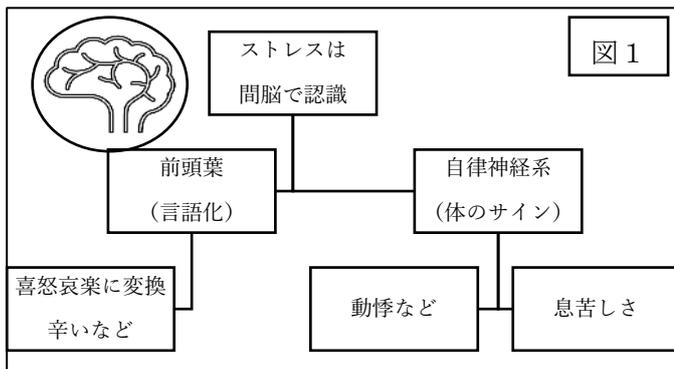


図1

【ストレスを認識する仕組み(図1)】(補足情報)

○ 脳は、ストレスを受けると『間脳』という場所で認識され、喜怒哀楽の感情として、「辛い」と感じます。

○ ストレスは、前頭葉と自律神経系の二つに分かれて認識します。自律神経系では心臓や肺に送られ、動悸や息苦しさなど内臓の動きとなります。前頭葉

に伝わると、「この感情は、何なのか?」と喜怒哀楽が言葉によって分析されます。そして「ちょっと辛いんだ」と誰かに話すことで現状を理解しどのように対処したらいいか考えることができます。また、身体のサインにも気が付いて、『ゆっくりお風呂に入って、おいしいものを食べて好きなお笑い番組を見る。』といったリラックスができるような取り組みでストレスとうまく付き合えるようになることも大切です。

【ちょっと休憩】



もうすぐ、正月休暇で母も施設から戻ってくる。(やれやれ。。しかたがないか。。)

年末の大掃除。。母は昔から掃除は好きだったので、「大きなフローリングモップを使って掃除をしてもらえるかな? 洗濯物も好きだったからやってもらいたいな。。。」と空想する。とりあえず、手に取れそうな所にモップや洗濯物を置いてみよう。私がやり始めると、母もやりそうな気がする。。人は(良いも悪いも)響きあうから、そこにちょっとだけ期待しようかな。(笑)



【家庭でのお手伝い】

進路指導班の「進路だより」にも書かれているように、高等部の皆さんにとっては、将来の生活をイメージして生活上のスキルとして「できそうなお手伝いをする」を目標にしても良いと思います。例えば、『電子レンジを使って昼ごはんを一品作る』『洗濯機の使い方を練習する』のもいいかもしれません。窓ガラス拭きは、年末のイベントですが、清掃班の生徒さんは腕の見せ所ですね。

小中学部の皆さんにとっては、家庭でのお手伝いは、国語や算数の基礎になり、物事を段取る力が育つ機会になります。例えば、家族のカラーを決めたテーブルマットや紙を用意して、そこに箸やスプーン、コップの絵を書き、子どもたちには実物を絵の上に置いてもらいます。箸置きを一つ置いたり、見本のテーブルセットを一つ準備したりして、同じように置いてもらっても良いですね。お手伝いの後は頑張ったことが評価される機会が自然に作りやすく、「誰かのために頑張り良い気持ちになった」という記憶は強化され自分の仕事として定着し、働くことの基礎になります。



『御礼』今年も多くのご相談をさせていただきありがとうございました。ご家庭でのお困りごとやご心配等のお話を伺うことで情報共有と支援策をご相談で、お子さんの成長を振り返ることができました。誠にありがたく思っております。来年もまた、お気軽にご連絡ください。どうぞ良いお年をお迎えください。文責橋爪

